

# 国鉄車両検修基地建設事業



フィリピン国鉄車両検修基地

## 借款概要

承諾額/実行額	4,500百万円/4,496百万円
借款契約調印	1983年7月
借款契約条件	金利3.0%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1992年7月

## 事業概要

ディーゼル車両90両対応の車両検修基地をマニラ近郊に建設し、列車の遅延・運休など運行悪化の原因となっている車両保守体制を改善するもの。

## 評価結果

実施機関のフィリピン国鉄では、ディーゼル車両の検修作業をオーバーホール（検査や修理のためにばらばらにすること）、Aクラス（オーバーホールとほぼ同じ）、Bクラス（セミオーバーホール）などのカテゴリーに分類している。検修作業の上記カテゴリー別にみた現状の所要日数は、当初計画ほどの短縮は見られないものの、アプレイザル時の作業日数と比較するとオーバーホールとAクラスについては短縮されており、本事業により新しく機器・設備が導入された結果として評価できる。

フィリピン国鉄（PNR）の財務状況は1995年から債務超過が続いている状態であり、また、維持管理を行っている同国鉄内のRolling Stock Maintenance Departmentは、新規採用が行われていないため全体的に職員の高齢化が進んでいる。事業の持続性・自立発展性のためには、PNRの財務健全化と職員平均年齢の若年化、技術力の維持向上などの対策が必要である。